

みちのく国づくり支援事業 荒川大学開校 H20/2/11(月)

荒川づくり協議会は設立、発足して10周年を迎え、記念事業として「荒川大学」を開校しました。福島テルサにおいて市内小学校による事例発表やシンポジウム、基調講演とすばらしい内容でした。荒川は風光明媚、四季折々楽しめる変化に富んだ東北でもっともきれいな川であります。荒川は水質日本一に三度輝き、平成の名水百選にも選ばれました。さらに荒川流域の治水・砂防事業、先人の残した土木遺産が土木学会選奨土木遺産に県内3例目として認定を受け、また高低差のある荒川の砂防堰堤は福島市街を土砂災害から守るため、砂防堰堤15基が国の登録有形文化財に登録され、本県においては初めてであります。

環境教育、河川浄化、景観保護に継続して取り組み、社会的評価に応じて、しっかりと活動して参ります。

●選奨土木遺産認定書授与式

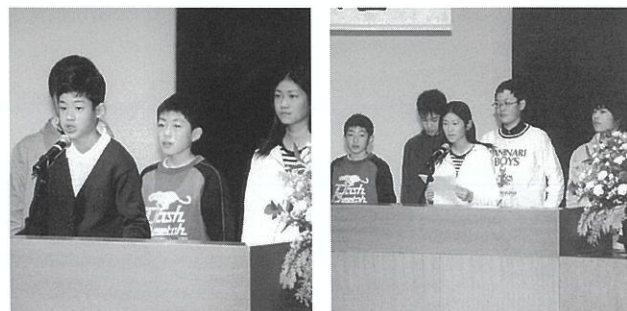
荒川流域の治水・砂防事業・荒川砂防ダム・地蔵原堰堤・霞堤等土木遺産に対する土木学会選奨土木遺産授賞式は当協議会10周年記念事業、荒川大学開校第二部として開催された。

多くの関係者、会員、一般市民の方が参加し、(社)土木学会選奨土木遺産委員会・東北大学准教授・(社)土木学会東北支部代表 後藤光亀先生より認定書及び認定プレートを授与されました。



●第一部 小学児童「川の学習発表会」

三河台小が「わくわく荒川たんけん」、岡山小が「阿武隈川親水公園での取り組み」、渡利小が「わたしたちと阿武隈川」、鳥川小が「流れる水のはたらき」と題して、児童の皆さんが荒川や阿武隈川を通して学んだ水や川のはたらきについて劇などで発表した。



●第二部 基調講演・シンポジウム

国土交通省河川局・越智繁雄様による「これからの河川のあり方と取り組み」と題して基調講演が行われ、その後、河川や水関係の有識者8名による「荒川のこれからの利活用を考える」とのテーマで、シンポジウムが行われた。



ふくしま荒川ミュージアム 設立総会

6/21(土)

平成20年6月21日、吉井田学習センターにおいて、「ふくしま荒川ミュージアム」の設立総会が行われ、趣旨説明、会則承認、役員選出等を経て新しく発足した。ミュージアムの設立目的は、荒川とその流域をフィールドとして活動している団体・個人がゆるやかに連携し、荒川に点在する歴史的な治水・砂防施設、地域の風習・文化、豊かな自然等の各種資源を調査研究し並びに教育等の事業を行うことにより、貴重な地域財産である荒川流域の資源の保存及び活用を図るものである。当会もこの目的に賛同し、ミュージアムに参加することになった。この事務局は、四季の里におかれ、今後は、当会もミュージアムと情報の交換を行い、当会の目的にそって、ミュージアムへの活動に参加することになる。総会終了後、設立記念講座として、東北大学准教授の後藤光亀先生による「ふくしま荒川ミュージアムに寄せる期待」と題して講演が行われた。その後、各参加団体の代表による意見交換会が行われ、参加者全員ミュージアム発展に期待を膨らませた。



東洋ゴムグループ環境保護基金 マップ作成・機材購入

荒川づくり協議会は(財)大阪コミュニティ財団より助成金を受け、荒川のガイドマップを作成しました。福島市内小学校及び市民にも配布、環境教育・総合学習に利活用されて大変喜ばれております。また、刈払機を購入し、クリーンアップ作戦には大きな威力を発揮し、すばらしい成果がありました。

みちのく国づくり支援事業 荒川大学開校記念事業荒川企画展 8/13(水)～18(月)



平成20年8月13日から18日の6日間、みちのく国づくり支援事業で行う荒川大学開校記念事業として、福島信用金庫のふくしんギャラリーにて荒川の魅力を紹介する荒川企画展を開催し、連日多くの市民の方々が訪れました。

